



編集後記

最近図書館が電子化され、文献検索が容易になってきているので、大変助かっております。特に、様々な方面からの資料を集めることができるので、便利な時代になっていると思っています。ただし、入手した資料の中から重要なものを探し出し、消化していくためには、それなりに時間を必要とします。今後は、今まで以上に多くの資料に接することができる時代になるとと思いますが、原石のような資料をできるだけ見落とさないように努力していきたいと思っています。

(委員長 共通教育委員会 佐野 英樹)

先だって私は、拙稿の表題を間違えるという大きなミスを行ってしまった。その拙稿とは「シンボリック相互作用論序説(3)——東北大学審査学位論文(博士)の要旨——」のことで、この論文の表題は本来「東北大学審査学位論文(博士)の要旨——シンボリック相互作用論序説(3)——」となるべきものであった(『鹿児島大学：経済学論集』54の奇数頁(p.83,81,79,77,75,73,71)の上欄外を参照のこと)。手書きで原稿を書いていた頃には考えられないようなミスであるが、ワープロを使いはじめ「コピー」という機能を頻繁に使っていたことに起因するミスであった。ワープロなどがま

すます普及する今日にこそ「文字に対する敏感さ」がますます必要になるのではないだろうか?。そう思う今日この頃です。

(法文学部 桑原 司)

なんらかの理由により、ルールが変更されることは珍しい話ではない。その理由が組織、財政、あるいは、社会に対しての責任などに起因することもあり得る。しかしながら、適用されるルールが変更されれば、対象となる現象の評価も変更されざるを得ない。新たな価値体系の構築が、その現象に潜む歴史的な意味をエポケーしてなされるときには、「何か変だな」と感じつつも、成文化されたルールに逆らうことはできない。新たなルールを「頭」で理解することに汲々としながら、目の前の現象を観察することになる。これは体操競技審判員として、わたくしが経験してきたことではある。しかしながら、なにやら場の拡張を感じさせるこの頃である。

(教育学部 高岡 治)

委員の長期出張のため年度途中から急遽代行しました。これまでユーザーレベルでしかコンピュータと関わることがなかったのですが、最近バイオ系のデータベースの構築事業に携わり、情報施設の重要性

を再認識しました。「地方大学でバイオインフォマテイクスの新発想を出せるのか?、即戦力の人材を養成できるのか?」という、本省担当官からの問いには、まだ回答できずにおります。万事にスピードが求められる時代ですが、地道に環境を整備して、系統立ててじっくり教育をする事が、実は人類の知的遺産を増やす早道ではないかという気がします。1人1人のヒト自体が、データベース兼情報媒体なのですから。

(理学部 宮本 旬子)

平成 14 年度から総合情報処理センターの広報専門委員となりました。初めての担当であり、工学部で研究紹介をしていただく先生を選定するという大役を任され、制御・情報ということをテーマとして執筆していただく先生を決定しました。執筆にご協力いただいた内山先生(情報工学科)、八野先生(電気電子工学科)には快く引き受けていただき、心から感謝いたします。15 年度も引き続き総合情報処理センターの広報専門委員を担当いたします。また、別のテーマで工学部の先生に執筆をお願いすることになると思いますので、その時はよろしく願います。

(工学部 吉本 稔)

—表紙について— 歯や骨を構成する無機成分であるアパタイトの基本結晶構造を示します。左側の基本構造の繰り返しにより右側の大きな規則正しい構造体、すなわち結晶が構成されていきます。上段は c 軸に垂直、下段は c 軸に平行に見た図で

す。赤はカルシウム、黄色はリン、青は酸素原子を表しています。CrystalDesigner というソフトウェアを用い、公開されている各原子位置の座標、結晶系を入力することにより、コンピュータ画面上に表示し、印刷しました。(提供 歯学部 伴 清治)

(歯学部 竹原 重信)

本誌を編集するに当たって、担当の農学部と水産学部から合計 4 名の方々に原稿執筆のご協力をいただきました。執筆依頼を快くお引き受けいただいた先生方、お忙しい中どうもありがとうございました。総合情報処理センターも来年度からは学術情報基盤センターへと発展的な改組が予定されているとか、センター広報誌が今後ますます充実することを願っております。

(農学部 田代 正一)

平成 15 年 4 月に総合情報処理センターが改組され「学術情報基盤センター」が設置される予定です。この広報は総合情報処理センター最後の広報となります。昭和 62(1987)年の情報処理センター設置以来続いてきた広報もこの形での発行は最後となるでしょう。新センターには 6 名の専任教官が置かれ、研究開発も新たな業務として加わりますが、総合情報処理センターの業務はすべて引き継がれ、より充実することになるはずで。新しい学術情報基盤センターにご期待下さい。

(総合情報処理センター 升屋 正人)